様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年 １０ 月 ２５ 日現在

機関番号：３４５０３
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2014～2015
課題番号：２６５８００６２

研究課題名（和文）パリ・エコール・デ・ボザール蔵日本美術品499点（未公開）の総合的研究

研究課題名（英文）Pioneering research on the "Tronquois Collection" in Paris

研究代表者
柏木　隆雄（Kashiwagi, Takao）

大手前大学・比較文化・教授

研究者番号：２００９８４９５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：　パリ国立３機関（エコール・デ・ボザール、アール・デコ図書館、ギメ美術館）が収蔵する、日本の文化財トロンコワ・コレクションを、美術と文学を折衷した関心と視点で研究。ボザール所蔵コレクション499点（申請者確認では、肉筆絵画60点、版画355点、版本45点、計460点）を中心に、日本美術品を受容した歴史的・文化的背景を、当時パリを席巻したジャポニスム美術の潮流に乗った文筆家たちの資料で文学的基盤で固め、これまで理念に偏って分析されてきた「コレクション」を客観的に検証可能な議論の対象とした。本報告書は、当該各3機関蔵の肉筆画目録を刷新し、新たに撮影した画像を収録したものである。

研究成果の概要（英文）：The “Tronquois Collection” has been preserved untouched in the archive of Ecole des Beaux-Arts ever since it was first collected by Emmanul Tronquois (1855-1918). This collection was bequeathed to Ecole des Beaux-Arts under the name of Robert Lebaudy on 30th September 1907 by Gaston Migeon, a curator at the Louvre . According to the gift catalogue, the collection of books and art objects included: “73 books (including illustrated books), 70 scrolls, 356 prints.” The research representative of this proposed project investigated the collection and discovered that the remaining items are: “45 books (including illustrated books), 60 scrolls, 355 prints.” The Tronquois Collection, divided as it is among Ecole des Beaux-Arts, Biblioteque Nationale, Musee des Arts Decoratifs and its archive as well as Musee Guimet, clearly testifies to the cultural current for literature and visual art in the nineteenth century between Japan and France.

研究分野：西洋文学

キーワード：トロンコワ・コレクション　19世紀末日仏文化交流　エコール・デ・ボザール　国立装飾図書館　ギメ美術館　琳派とモネ　ジャパン・イルストレ　奥村政信の六曲屏風

１．研究開始当初の背景

海外に流出したトロンコワ・コレクションについての研究は、受容したフランス側の無頓着さと、言葉の壁によって、１世紀以上もの間、それらを収蔵する、パリ国立高等美術学校（エコール・デ・ボザール、以後ボザールと略す)、アール・デコ図書館そしてギメ美術館において、いかなる研究者に対しても閉ざされた状態にあった。研究代表者が昨年まで学長を務めた大手前大学とボザールの交換留学制度による国際交流推進の過程でトロンコワ・コレクションの研究をボザールから要請されて実現したのが本研究のきっかけであった。このコレクションについては、国際日本文化センターの稲賀繁美氏がその膨大さ、重要性に注目し、コレクションが実際パリの主立った機関に分割されていたことは日仏会館・フランス国立日本研究センター所長のクリストフ・マルケ氏の先行研究で明確になっていたが、分割先においてそれらの作品の整理・分析は現在に至るまで実施されていないことは驚くべき事実である。ボザールの掛け物は、研究代表者が茶道に精通している研究分担者の援助を得て、初めて巻緒を解いた作品（たとえば、アール・デコの学芸員は巻緒の処理の仕方を写真に収めていた）も含めての分析を行い、2015 年には詳しいデーターを作成するに至った。フランスでは芸術品の閲覧許可に関して、各機関の学芸員の発言力が重要であり、各機関が保管する資料についての研究は、各々の学芸員との交流が密で、信頼関係が構築されないと実際の作業を行えない。ボザールとの交流を機に、アール・デコ図書館とギメ美術館の了解を得られたことは、本研究にとって、誠に幸運な幕開けであった。

２．研究の目的

ボザールの資料館には、当校建築科に学び、絵画科に転籍して卒業したエマニュエル・トロンコワ Emmanuel Tronquois（1855-1918）が収集した「トロンコワ・コレクション」があり、1907 年からの収蔵以来、ほぼ死蔵の状態にある。当時日本美術に傾倒していたルーヴル学芸員ガストン・ミジョン Gaston Migeon によって、1907 年 9 月 30 日に、美術愛好家で企業家のロベール・ルボディ Robert Lebaudy の仲介で寄贈品として、ボザールに配分した版本と美術品は、寄贈目録によると、「書籍(図版入りを含む)が 73 点、掛け物 70 点、版画 356 点」にのぼる。本研究代表者の 2015 年度調査によると、実際は「書籍(図版入りを含む)が 45 点、掛け物 60 点、版画 355 点」が残続して保存されていることが判明した。ルーヴル美術館から分贈された（ボザールと、国立図書館、アール・デコ資料館および美術館、ギメ美術館の 4 機関、但し掛け物に関しては国立図書館には寄贈されなかった）トロンコワ・コレクションは、19 世紀末の日仏文化（文学・絵画）の潮流を反映するものだ。

本研究の発端となったボザール所蔵の資料研究は、連携研究者である京都市立芸術大学名誉教授柏木加代子が 1999 年に京都市立芸術大学とボザールの国際交流を立ち上げて以来、15 名に及ぶ留学生を派遣した、2013 年に、ボザール副学長ガイタ・ルボワステェ Gaita Leboissetier 氏を招聘し、パリに派遣された日本人学生たちによる展覧会を開催した折りに副学長からトロンコワ・コレクションについての検証を依頼されたことが大本のきっかけであった。

研究代表者は、2012 年 9 月、学長を務める大手前大学とボザールとの交流締結を機に、日本フランス語フランス文学会会長として、当時のボザール学長ニコラ・ブリオーNicola Bourriaud 氏とも知己を得、ボザールの資料を自由に分析できる信頼関係が構築され、さらに 4 つの機関の主席学芸員との連絡も可能になった。

本研究の目的は、バルザックを中心とする19世紀文学者で、比較文学の研究者でもある、研究代表者が、コレクションを所蔵するボザール資料館から、その分析、研究を許可されたトロンコワ・コレクションの歴史的意味を、フランス文学がジャポニスムを許容させた背景とあわせて考察し、さらにグロバリゼーション化が著しい現在における、文学と美術、この二つの学問体系のヴァリアーを取り除いて、19世紀末から現在にいたるフランス文学の潮流と日本文化の受容を、貴重な資料であるトロンコワ・コレクションの分析を通して明らかにし、新たな人文科学体系を構築することである。

３．研究の方法

本研究においては、まずボザールに寄贈されたトロンコワ・コレクションに関してその詳細について、歴史的、文化的、社会的背景を固め、さらに他の3機関、国立図書館、アール・デコ資料館、ギメ美術館、に収蔵されたトロンコワ資料の現況を調査する。その上で19世紀末の日仏文化交流を、19世紀フランス文学の潮流を基軸に考察し、明治維新以来の海外に流出した日本の芸術・文化財のフランスにおける基盤的環境を整備し、どのようにトロンコワ・コレクションの細目が、日本に滞在したトロンコワによって決められ、選ばれたか、日仏双方の文学・美学（美術史）の専門家を糾合して、この貴重なコレクションについて調査、研究することで、19世紀末から現在にいたる日本文化の潮流を鳥瞰し、最終的には、文学と美学（美術史）が歩んだ学問的方法を「コレクション」の視点から再検討する。

４．研究成果

本研究は判本を含む膨大な日本コレクションの総合的分析であるが、先ず最初に注目したいのは、コレクションを保存した20世紀初頭のパリ主要国立機関が、イメージを介する芸術「美術」と文字を介する芸術「文学」の統合の重要性（これは今日の日本漫画文化ブームの基盤と見ることができる）をジャポニスムのもたらした文化功績と評したことである。本研究の場合、文学あるいは美学といった旧来の研究の枠組みにとらわれない人文・社会科学の新展開で、あらゆる点で国際的で錯綜する、現代の文化科学研究を構築するに重要な研究体制である。今日に至るまで、専門分野の研究の大きな発展によって推し進められた研究の細分化によって、ある特定の分野を究めることが最も大切であるかのような風潮が確かにあった。しかし、研究の世界にはさまざまな突破口があり、イメージと文字は複雑に入り混じり結びついている。時にはギリシア伝説の、恋人アリアドネの糸を手繰って牛頭人身の怪物ミノタウロスを退治するため迷宮に入ったアテナイの英雄、テセウスのように他領域の内部に入り込むことが渇望される。本研究課題のその「糸」がトロンコワ・コレクションであり、研究のコアは、諸外国における日本理解の基礎、つまり「日本研究」にある。トロンコワ・コレクションを介して、日本本来の文化構造である「文学と美術」の共存について考察することは、人文・社会科学の国際化の原点となる日本文化のバリアフリーな研究と考える。トロンコワ・コレクションの研究に着手したのは、先にも言及したように、ボザール所蔵を始め、3つの機関に死蔵されていたこのコレクションの全容を明らかにすることによって、文学と美術、この二つの学問体系のヴァリアーを越え、日本文化（文学・美術）の受容をフランス芸術の潮流の中に捉え、その意味を明らかに、新たな人文科学体系を構築することにあった。

2015年11月21、22日に、国内外の文学・美術専門家諸氏を招聘して開催された公開シンポジウム会場に於いて、代表者が強く

標榜していたボザールが所蔵するトロンコワ・コレクションのうちの肉筆画（六曲屏風の一点、掛け物 2 点）の日本での展示の初公開が漸く実現した。つまり 1 世紀以上も歴史に埋もれた貴重な日本美術品を日本で初公開し、文芸共和の日本文化が歩んだ伝統的方法が提示できたことになる。

国際シンポジウム開催には、専門分野の国際共同研究者を日本に招聘することが必要である。またトロンコワ・コレクションの展覧会準備のためは、作品移送を保護する学芸員（ボザール資料館の主任学芸員エマニュエル・シュワルト氏）の渡航費、滞在費、作品維持費、整備費が必要であった。研究チームがすでに確認したように、掛け物の状態は、決して海外の展覧会に耐えうる状態ではない。しかし、本研究班とパリ国立文化財研究所があらかじめ行ったボザール収蔵トロンコワ・コレクションの調査結果によれば、コレクションのうちの数点は日本への里帰りが可能である。シュワルツ氏によれば、国際交流校として大手前大学（研究代表者）への貸与費用は無償で、状態のいい作品を選択すれば、海外での展示は可能である。ただし、作品の保険、輸送費など多額の費用がかかるという。これに関してもボザールのご配慮によって、最も安価で安心な保険を選択することが出来た。

また、研究成果は、ホーム・ページ上の公開は勿論のこと、シンポジウム報告書（2016 年 4 月末思文閣出版より刊行）と、未公開資料などを添付したトロンコワ・コレクション全容を明らかにする研究成果報告書を日仏両言語で刊行した。

本来、肉筆画の図版などについての版権・著作権を考慮しなければならないが、フランス人プロカメラマン Bruno Gaullier 氏の協力を得て鮮明な画像を作成することに成功した。この画像について、ボザールは交流校として異論を唱えず、アール・デコ資料館、ギメ美術館からも学術研究の範疇ということで掲載の許可を得ることができたこと、これらの画像の公開によって、今日まで死蔵されていたコレクションの全貌を幅広く世界に開示するに至ったのは本研究の大きな成果である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 10 件）

1)「大学で学ぶとは」柏木隆雄、石上浩美・中島由香編『キャリア・プランニング』、ナカニシヤ出版、2016、pp.1-8.

2)「菊池寛とバルザック―『真珠夫人』をめぐって―」柏木隆雄、GALLIA, LIV, 大阪大学フランス語フランス文学会、2015、pp.33-42.査読有

3)「三好達治の詩的空間　―フランス詩との関わりをめぐって―」柏木隆雄、大手前大学論集、第 15 号、2015、pp.43-65.

4)「まえがき」「フランス漫画の原点―グランヴィル、ガヴァルニ,ドーミエ―」大手前大学文化交流研究叢書 11『日仏マンガの交流―ヒストリー・アダプテーション・クリエーション―』、柏木隆雄、石毛弓, 小林宣之、思文閣出版、2015, pp.i-v, pp.106-133.査読有

5)「フロベールと芸術　―「カオス」から「永遠」を―」柏木加代子、GALLIA, LIV,大阪大学フランス語フランス文学会、2015、53-62 頁、査読有

6)「モーパッ サン『首飾り』を読む」柏木隆雄『大手前大学論集』第 14 号、2014、pp.85-105.

7)「前書き」柏木隆雄、『日仏文学・美術の交流　―「トロンコワ・コレクション」とその周辺―』大手前大学比較文化叢書 10,思文閣出版、2014、pp.i-v.

8)『フランスところ、どころ』(*Aux quatre coins de France*)、柏木隆雄、クリス・ベアルド、濱田明、鎌田隆行、寺本弘子、寺本成彦、山上浩嗣、弘学社、2014、 p.119.

9)「島崎藤村に見るジャン=ジャック.ルソー―『破戒』から『新生』へ―」柏木隆雄『ルソーと近代』、共著　第４部　第７章　風行社、 2014、pp.379-398。

10)「翻訳文学の力――翻訳は何を創ってきたか」柏木隆雄『岡山大学文学部プロジェクト研究報告書』、岡山大学学術成果リポジトリ http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/journal/rpkp/文化の交流、文化の翻訳 2014.4.30, pp.105-123.

〔翻訳〕（計 3 件）
1)『フロベール「心の城」』翻訳・解説、柏木加代子、大阪大学出版会,2015、全 303 頁の内「訳者解説」pp.235-295。
2)バルザック『ソーの舞踏会』(『夫婦財産契約』、『禁治産』を含む３編）柏木隆雄、ちくま文庫、2014、全 441 頁、「註」「解説」pp.442-474。
3）バルザック『暗黒事件』柏木隆雄、ちくま文庫、2014、全 391 頁、「註」「解説」pp.393-443。

〔学会発表〕（計 15 件）
1)「フェリシアン・シャレ―『絵入り日本』とエマニュエル・トロンコワ」柏木隆雄、シンポジウム「日仏文学･美術の交流―トロンコワ・コレクションとその周辺―その２」、於大手前大学セル･フォーラム、2015.11.22.
2)「トロンコワ・コレクションの芝居絵について」柏木加代子、シンポジウム「日仏文学･美術の交流―トロンコワ・コレクションとその周辺―その２」、於大手前大学セル･フォーラム、2015.11.21.
3)「大正･昭和の文壇の王――菊池寛の文学」柏木隆雄、 天津外国語大講演、於天津外国語大学、2015.10.20.
4)「日本画家土田麦僊に見るフランス絵画の受容」柏木加代子、中国天津外国語大講演、於天津外国語大学、2015.10.20.
5）「三好達治：叙情詩の世界」柏木隆雄、東北大学秦皇島分校講演、於中国東北大学秦皇島分校、2015.10.19.
6)「グローカル現象としての三好達治の詩業」柏木隆雄、成城大学「グローカル文化研究所」講演、於成城大学、2015.10.9.
7)「『心の城』の翻訳について」柏木加代子、フロベール研究会、日本フランス語フランス文学会春季大会（於明治学院大学）2015.5.30.
8)「小説『真珠夫人』とフランス小説」柏木隆雄、三重日仏協会、放送大学三重学習センター共催、於三重県総合文化センター文化会館、2015.4.12.
9)「小説家小林一三」柏木隆雄、武庫川倶楽部、講演、於宝塚ホテル、2015.3.11
10）「菊池寛とバルザック」柏木隆雄、関西バルザック研究会、於大手前大学、2014. 12. 23.
11)「菊池寛の文学」柏木隆雄、キリスト教文学研究会、於青山学院大学、2014.12.6.
12)「フランス漫画の原点　―ドーミエとガヴァルニ」柏木隆雄、「シンポジウム　日仏漫画の浸透と交流」、大手前大学交流文化研究所、於大手前大学、2014.11.23.
13)「フランス文学研究・翻訳の現在―小説の場合」柏木隆雄、日本フランス語フランス文学会秋大会シンポジウム、於広島大学、2014.10.25.
14)「三好達治の詩的世界」柏木隆雄、第 6 回中日日本言語文化研究国際シンポジウム講演、於大連大学日本言語文化学院、2014.5.31.
15)「三好達治とフランス詩」柏木隆雄、三重日仏協会、放送大学三重学習センター共催 、於三重県総合文化センター文化会館、2014.4.13.

〔図書〕（計 6 件）
1)「フェリシアン・シャレ―『図版入り日本』とエマニュエル・トロンコワ」柏木隆雄『江戸文化が甦る　―トロンコワ・コレクションで読み解く琳派から溝口健二まで』思文閣出版、2016、pp.101-122（仏訳 pp.291–310)。
2)「トロンコワ・、コレクションの芝居絵を読む」柏木加代子『江戸文化が甦る　―トロンコワ・コレクションで読み解く琳派から溝口健二まで』思文閣出版、2016, pp.80-98（仏訳 pp.272–287)。
3)「太宰治のフランソワ・ヴィヨン体験　―『乞食学生』を貫くフランソワ･ヴィヨン『大遺言書』詩句借用」柏木隆雄、長谷川富子、伊川徹、饗庭千代子編『フランスと日本　遠くて近い二つの国』、早美出版社、2015, pp.99-123.
4)「小説家小林一三の位置」柏木隆雄、『文学』第 16 巻・第 2 号、岩波書店、2015, pp.282-304.
5)「フロベールとボザール教授ボナ」柏木加代子、『日仏　文学・美術の交流　―「トロンコワ・コレクション」とその周辺―』大手前大学比較文化叢書 10,思文閣出版、2014、pp.86-110(仏訳 pp.243–261)。
6)「土田麦僊とヴェトイユの少女」柏木加代子、『フランスと日本　–遠くて近い二つの国』早美出版社、2015、pp.206-219.

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
柏木隆雄（KASHIWAGI TAKAO）
大手前大学比較文化研究科教授
研究者番号：20098495

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
柏木加代子（KASHIWAGI KAYOKO）
京都市立芸術大学名誉教授
研究者番号：10128689